南山大学大学院
入学試験
出題の意図および解答例

法学研究科

2026年度・春季

NANZAN
UNIVERSITY

目　　次

≪博士前期課程≫

論述試験（政治思想史）……1
英文読解……2

＜出題の意図＞

問１

近代西洋政治思想の伝統は（それとは異なる共和主義の伝統を掘り起こすといった場合も含めて）ほとんど自由主義とともに語られてきたと言ってよい。その自由主義の系譜とその現代における継受とについて、基本的な知識があるかどうかを問うことにより、西洋政治思想史研究に臨む上での基礎が備わっているかどうかを問うことが本問の意図である。

問２

思想史学において、テクストとコンテクストの関係をどう捉えるかは、方法論上の基本的な論点である。この論点に関する基礎的な理解を有しているかどうかを問うことで、思想史研究のための素養を身に着けているかどうかを確認することが本問の意図である。

＜解答例・評価のポイント＞

問１

まず自由主義という語自体が論争的であることを前提として、それが何を指すのか、あるいはどのような意味で論争的であるのかを明示することが求められる。また、それに応じて、どの思想家をその系譜に加え入れるのかを、例示的にでも記すことが求められる。同様にして、現代リベラリズムにしても（ロールズを軸に把握するのが一般的ではあるかもしれないが）、どの立場のことを指すのかを明示することが必要である。そのうえで、その現代リベラリズムが、解答者の見るところの自由主義から何をどう継受している（あるいはしていない）のかを記すことが求められる。

問２

一方にシュトラウスらのテクスト主義があり、他方にケンブリッジ学派と称される面々があるという、スキナー流の図式は最低限おさえられている必要がある。そのうえで、現実の思想史研究においてテクストとコンテクストとの関係は、この図式に収まりきるほど単純ではない旨が論じられているとよい。その際、いま挙げた面々などによる個別の研究を参照しながら論じるという進め方もあれば、それ以外の方法論を参照するという進め方もありうる。後者の場合に引き合いにだされうる題材としては、解釈学やコゼレック流の概念史、あるいは、観念の歴史をめぐる再評価やグローバルな知性史の潮流といった昨今の動きが考えられる。その他、アメリカ政治理論史をめぐるジョン・ガネルの議論なども参照されうる。

＜出題の意図＞

平易な構文で明晰に書かれた英文の読解能力を問う。 同時に、博士前期課程で勉学する前提として、法学や政治学の分野につき、それぞれの特殊な領域の専門文献ではなく、共通する基本的な内容の英文につき、注を参照しながら、適切な訳語を選択し、必ずしもこなれているわけではなくとも、内容を理解し、正確な和文に訳す能力を問う。

＜解答例・評価のポイント＞

もっぱら英文の和訳問題であり、解答は一義的ではないことから、解答例は示さない。上述の出題意図に対応して、以下が評価のポイントである。

・英文全体の趣旨と文脈を理解した上で、正確で明晰な和訳ができていること。

発行：南山大学　入学センター
名古屋市昭和区山里町 18 番地
Phone ： (052)832-3119
E-mail ： nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp
ＵＲＬ： https://www.nanzan-u.ac.jp/